

家の畑で学んだこと

秩父市立南小学校 五年 加藤 燎

ぼくの家の庭には、父が育てている畑があります。キュウリ、オクラ、トマトが並んで元気に育っていて、ぼくも水やりや草取り、支柱立てなどを手伝っています。今年の夏も暑く、日中は四十度近くまで気温が上がり、畑仕事は汗でびしょりになりました。土が乾きすぎると野菜はしおれてしまい、急にゲリラごう雨が降ると根が水にわか、てしまうこともあります。天気ひとつで野菜の育ちが変わるので、父は毎日天気予報をみながら心配して作業していました。

畑での作業は思ったより大変ですが、野菜の成長を見守るのは楽しいです。トマトの赤い実を収めかけたときは太陽の光をいっぱい浴びて輝く姿がとてもきれいで、手をかけた分だけうれしさも大きく感じました。オクラやキュウリも、葉の間から顔を出したときに見つけると、思わず笑顔になります。父は

野菜は人の手で守つてやらないと元気に育たないんだ」と話してくれました。ぼくは、その言葉の意味を少しずつ理解できた気がします。

畑仕事を通して、野菜が育つのは土や水、太陽、そして人の努力が必要だと学びました。猛暑や豪雨などの天候の影響で、思うように収穫できないこともあります。そんな時は父も少し悔しそうですか、それでも毎日手をかけ続ける姿を見て、ぼくも頑張ろうと思いま

す。野菜を育てる大変さと、育った時の喜びを体験できることは、ぼくにとってとても大切な学びです。

これから父と一緒に畑を大切にし、野菜を無駄にせず食べることを心かけたいです。そして秋の自然や畑の恵みに感謝しながら、家族や友達にも、野菜作りの楽しさを伝えていきたいです。畑での経験を通して学んだ事を、これからの生活でも活かしていきたいと思っています。